

生活者ネットワーク活動報告

わくわく通信

NO. 190



2026年1月12日発行 生活者ネットワーク
発行責任者 奥村さち子
〒183-0023 府中市宮町 2-15-1 柏屋ビル1F
TEL 042-360-4443 FAX 042-360-4462
Eメール fuchu-snet@ric.hi-ho.ne.jp
ホームページ http://fuchu.seikatsusha.me/
奥村さち子 http://okumura.seikatsusha.me

市議会議員

奥村さち子

所属委員会

- ・厚生委員会
- ・学校施設老朽化対策特別委員会



12月議会 一般質問

「ちゅうバス」の再編 北山町エリアでは 大幅な変更が！

市内の交通不便地域の解消と、移動が困難な市民の日常生活を支えるために運行されてきた「ちゅうバス」は、2026年4月から路線などが変更になります。それにより大きな影響を受けるのは、市の北西に位置する北山町エリアです。

府中駅から北山町まで運行していた「北山町循環」は大幅なルート変更で、本宿町までの折り返しとなり、北山町には行きません。代わりに、ワゴン車による「ちゅうバス」が90分間隔で、中河原駅へ行く「新府中街道ルート」が1年間の「実証運行」として通ることになりました。

暮らしへの影響は

「府中駅や市役所に行けない」「これまで通っていたスーパーや病院に行かれない」「ワゴン車だと乗り切れるか不安」などの声があります。11月の「実証運行に関する地元説明会」でも、「高齢者はちゅうバスを使って、買い物や通院などの日常生活を送っていた。外出もしづくなり、とても困る」といった切実な声が多くあがつてきました。これまでの日々の生活が困難になつたり、外出を控えることで、介護が必要に

外出や交流の機会を損ねることは、福祉政策の後退にもつながります。福祉の視点で、「実証運行」の検証をすることを求めました。



生活者ネットワーク

佐久市・視察 2025/11/9

支え合いながら地域で暮らす



田中夏子さん

●長野県高齢者生活協同組合・東信地域センター

長野県佐久市にある長野県高齢者生活協同組合副理事長、田中夏子さんと、前センター長、松崎裕子さんから、東信地域センターの「福祉の協同組合」としての取り組みを伺いました。

小規模多機能型居宅介護の「四季のベンチ」、組合員による俱乐部・サロン活動、介護予防の「かがやき広場」、地産地消で365日、高齢者の見守りと食を支えている配食の「米(まい)ちゃん弁当」の4つの事業を運営しています。サービスを利用する人と共に、必要な地域資源として踏ん張っている姿勢に大変感銘を受けました。

この生協の目的は、「今後不安定な介護保険制度の中でもお互いに助け合いながら、サービスやケアをやりとりできる場をつくりしていくこと、孤立や不安がなくなるよう、生きがいや暮らしの張りをつくるための仲間づくり、高齢者でも安全に従事できる仕事、地域に必要な仕事を生み出すこと」でした。人と人が「つながる」こと、関係性をつむぐことが、地域福祉の原点であると実感した視察となりました。



なつてしまふリスクがあります。本格運行に向けた検証方法などを質問しました。答弁では、「実証運行中に住民とワゴン車両利用者へのアンケート調査を行ない、見直しを検討する」とのことでした。が、「実証運行」の検証の基準も合わせて明確に示すべきです。

高齢者の利用が多い西原町エリアでの通院や買い物に行き来できるルート設定を求める検証は、高齢者や子育て世帯などの実態を丁寧に調査すべきと訴えました。

田中夏子さんの案内で、都内の出版社「梨の木舎」の舎主・羽田ゆみ子さんが開いた「梨の木舎ガーデンカフェ布施谷」を訪ねました。古民家の広間に大きなテーブルと本棚を整え、カフェに改装した居場所は、里山に囲まれ、晩秋の光景にうつとり…でした。ヤギのふーちゃんもいます。羽田さん、田中さん、佐久市議の小松みほさんと意見交換をしました。佐久市議会では「ゲノム編集食品表示を求める陳情」を全会一致で採択したそうです。



羽田からみ子さん
2人目



●梨の木舎ガーデンカフェ布施谷

羽田さんは「東京から来る人に田舎を知ってほしい、居場所があることで人とのつながりができる」と話されました。古民家は戦死した羽田さんの叔父さん縁の家だそうです。「梨の木舎」といえば、「教科書に書かれなかった戦争」シリーズが有名で、アジアへの日本の侵略の責任や女性・人権問題に一貫して取り組んできた出版社です。「慰安婦問題」をきっかけに、「どんな力がアジア侵略に向かわせたのか知りたい」との思いから出版を続けてきました。思いを貫いた半生には敬意しかありませんでした。



12月議会より

陳情

「ゲノム編集食品の表示の義務化を国に求める意見書の提出を求める陳情」

表示の義務がない「ゲノム編集食品」に対し、「生命と健康に直結する分野である食について、消費者が何を選んで食べるかを主体的に判断できる環境づくりのため、国に制度の改善を求める」という趣旨の陳情が提出されました。

本会議で、採択となり、府中市議会として国に意見書を提出することになりました。

ゲノム編集食品とは

ゲノム編集は、ゲノムと言われる遺伝子の総体の中から、標的とした遺伝子を切り取る技術によって品種改良を行なうもので、高血圧に効果があるヤバを多くしたトマトのジュースなどが流通しています。しかしゲノム編集は、ターゲットとなる遺伝子を確実に切り取れるとは限らないことや、ゲノム編集を確認する「マーカー遺伝子」の人体への影響などが疑問視されており、健康へのリスクが未解明です。

厚生労働省は、「ゲノム編集の技術は自然界でも起こる変化であり、食品安全衛生法が定める安全性審査の対象

保護者に向けたアンケート調査では、通学距離が延びることや、交通安全について、不安の声が多くありました。保護者や児童、地域住民

は、武藏台小学校と第七小学校の統合に向けて、保護者や地域住民への説明が進められています。12月議会では、第七小学校の敷地に、統合する学校を建設することが示されました。今後、改めて説明を行なうということです。

校舎の老朽化対策を進める中、児童生徒数が減少している学校に対し「より良い教育環境を確保する」ために、学校を統合する計画が示されています。

児童数の減少から武藏台小と七小が統合に?!

から外す」と拙速な結論付けをしており、消費者庁は食品への表示義務について、「ゲノム編集かどうか科学的な確認が困難」とし、表示義務はありません。

からさまざまなお問い合わせが市に求められます。丁寧な対応と対策を行なっていきることが市に求められます。

予算要望を提出(11月20日)

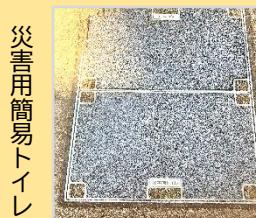
2026年度の生活者ネットワークの予算要望を提出しました。

- ◆住吉文化センターでスタートした午後8時まで利用可能な、青少年のための居場所事業を拡大すること。
- ◆災害時に自宅にとどまる人にも食料などの支援物資を供給する。
- ◆介護人材の確保、CO₂削減の取り組みなどは、市としての積極的な施策を進める。
- ◆包括的性教育の充実、スマホの影響を学ぶ機会をつくる。

など全82項目となりました。全文はホームページに掲載しています。

生活者ネットワークの地区活動
防災の視点でまち歩き
～西府町～

スタートは西府町農業公園。この公園には災害時に使用するための災害用簡易トイレがありました。煮炊きができる「かまどベンチ」も設置されています。このベンチを使用するには、開錠し、ベンチに貼ってあるQRコードからスマートフォンで使用の手順を読み込みます。災害時にはスマートフォンが使えないこともあります。日ごろから防災訓練などで実際に体験しておくことが大切です。



かまどベンチ

西府町3丁目から4丁目へと生活道路を歩きました。細い道が入り組み、行き止まりが多いことがわかりました。高いブロック塀、古い空き家もあり、道路の真ん中にある電柱も見られ、緊急車両の通行に不安もありました。防災の視点でまちを歩くことで見えてきた課題を、行政、自治会などと共有していきます。



わくわくまちづくりサロン



議会報告とまちづくりについての意見交換会です。視察報告もあります。お気軽にご参加ください。



1月27日(火)10:00~12:00

府中市市民活動センター プラツツ第3会議室
お問合せ 府中・生活者ネットワーク 042-360-4443
Eメール fuchu-snet@ric.hi-ho.ne.jp